

## (1) 目的と概要

▶ 札幌市総合交通計画の見直しにあたり、幅広く市民の意見を把握するため、ワークショップを実施しました。当日は、検討委員会で議論された計画の見直しの中間とりまとめをもとに、重要だと思う施策や市民の役割などについて議論し、意見をいただきました。

### ①開催日程

令和元年9月14日(土) 10:00~16:00

(10:00~12:00 事前説明、13:00~16:00 グループワーク)

### ②会場

TKP札幌ビジネスセンター カンファレンスルーム5A

(中央区北3条西3丁目1-44)

### ③参加者

32名

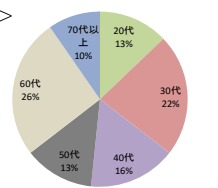
(無作為に抽出した18歳以上の市民3,000名に案内を送付)

応募者の中から年齢・居住区等のバランスを考慮し、抽選で参加者を決定)

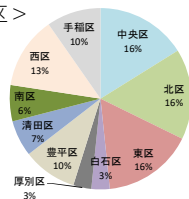
[ワークショップの様子]



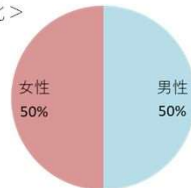
<年齢>



<居住区>



<男女比>



### ④ワークショップの進め方

交通戦略における「施策パッケージ」ごとに6つのグループに分かれ、ワールドカフェ方式※で議論を行いました。(各グループ6名程度)

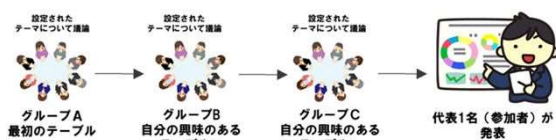
【施策パッケージ(グループ分け)】



#### ※ワールドカフェ方式

グループのメンバーをラウンド毎に入れ替え議論を行う形式。今回は3ラウンドに分けて行い、参加者は合計3つのテーマ(施策パッケージ)について議論を行いました。

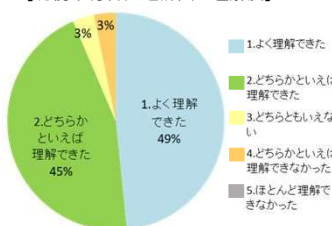
【議論の流れ】



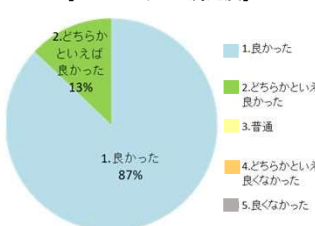
### ⑤参加者アンケート結果

多くの参加者から、札幌市総合交通計画について理解が深まり、今回のワークショップに参加して良かったとの声をいただきました。

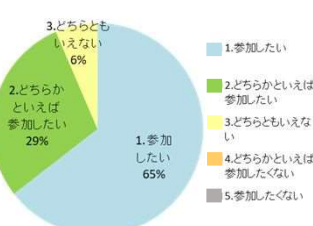
[札幌市総合交通計画の理解度]



[ワークショップの満足度]



[今後の参加意向]



## (2) ワorkshopにおける主な意見

グループ	重要だと思う施策	市民の役割
安全・安心なまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>悪天候時の運休や代替手段の情報提供(スマホを使えない高齢者や子供にも配慮を)</li> <li>車両のバリアフリー化(ステップが高い車両や通路が狭い車両は、ベビーカー等で利用しづらい)</li> <li>JR駅でも安全対策としてホーム柵を設置</li> <li>自転車の通行位置の明確化や駐輪対策(ビル建替え時に駐輪場を設置、有料化、ポコクル活用等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歩道に雪を捨てない等、市民の意識向上が必要</li> <li>バス停や電停にスコップを置き、利用者も除雪を行う</li> <li>自転車の走行ルールの遵守(逆走、歩道の暴走、イヤホンをつけたままの走行はしない)</li> </ul>
多様な暮らし	<ul style="list-style-type: none"> <li>バスロケなど非常に良い取組が、市民に周知されていないため、メディアや広報誌を活用</li> <li>冬期間はバスの定時性の確保、屋外でのバス待ち環境の向上(バスロケを活用したコンビニ等でのデジタルサイネージ設置やバス停上屋・ベンチの拡充など)</li> <li>バス便数の確保やバスネットワークの改善(バス停までの歩行距離が伸びてもいいので、路線を集約して増便してほしい)</li> <li>自家用車に代わる交通手段の拡充(高齢者の事故対策)</li> <li>拠点での乗継機能強化(真駒内駅を定山溪などへの玄関口として整備)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大雪時などには不要・不急の外出を控える</li> <li>高齢者の運転免許返納について町内会等で警察の話を聞く場面を設ける</li> <li>企業等がネーミングライツとして路線バスを支援</li> <li>市民が積極的に砂まきを実施</li> </ul>
都心まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>荷捌き車の路上駐車が多いため、荷捌きスペースの確保</li> <li>今後も利用者増加が見込まれる都心部(さっぽろ駅や豊水すすきの駅など)での地下鉄駅のバリアフリー化推進(エレベーターや洋式トイレの増設)</li> <li>地下鉄駅の案内表示の充実(案内表示が少なく迷う)</li> <li>道路空間を活用した賑わいの創出(北3条広場のような空間を増やす)</li> <li>地下歩行空間の休憩スペースの充実(大通~すすきの間は休憩スペースが少ない)</li> <li>都心部のバスターミナルの機能集約(分散していて分かりづらい)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体の不自由な方や高齢者、子連れのひとにも道を譲るなど、他の道路利用者へ配慮した行動を心掛ける</li> <li>交通ルールについて積極的に学ぶ</li> </ul>
観光まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>分かりやすいバス停名(バス停名から最寄りの観光地が分からない)</li> <li>観光客にも利用しやすいバスロケ(バス停での表示やQRコード設置)</li> <li>観光客が利用しやすい乗車券や分かりやすい交通情報等の充実</li> <li>交通機関の乗換案内の充実、案内表示の多言語化</li> <li>観光地循環バスの充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>札幌市観光ボランティアとしての協力</li> <li>自ら札幌市の観光に関する情報を収集</li> </ul>
広域連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>新千歳空港の運行情報を札幌駅など空港に行く手前で提供</li> <li>丘珠空港へのバスなどアクセス強化、新規路線の誘致</li> <li>新幹線で来る観光客の道内地域へのアクセス強化(都心アクセス道路をはじめとする各方面へのアクセス強化)</li> <li>施策の積極的なPR(盤溪・北の沢トンネルが整備され非常に便利になったが、市民の認知が低い)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>みんなで新幹線に一度は乗る</li> <li>丘珠空港の積極的な利用</li> </ul>
環境負荷低減	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通系ICカードなどの利便性向上</li> <li>AIなどの技術を活用したマッチングアプリによる相乗り・混載の促進</li> <li>右折レーンがない道路で渋滞が多いため、右折レーン設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通の積極的な利用</li> <li>まずは「ご近所」づきあいの中から相乗りを实践</li> </ul>

## (3) まとめ

- ▶ これまで検討委員会等で進めてきた計画見直しの方向性と、市民が重要だと思う施策は、概ね一致していることを確認できた
- ▶ 市民が知らない施策が多く、**施策を積極的に周知する必要がある**という意見が多かった  
⇒「第2編交通戦略」の「行政機関の役割」に反映
- ▶ 市民の役割としては、**公共交通の積極的な利用に加えて、交通ルールの遵守や他の利用者への配慮など市民意識の向上**に関する意見が多かった  
⇒「第2編交通戦略」の「市民・企業の役割」に反映